

○ 聴唱法で。教師が歌ったり  
キーボードで演奏したりして、  
音程を正確にとりながら歌う。

○ 旋律に着目。楽譜や階名唱を  
手がかりに似ているフレーズ、  
違うフレーズを見つけさせる。

楽譜を目で追い、聴き、歌いなが  
ら何回かくり返すことによって児童

の多くが暗譜できた。アンサンブルの楽器を選ばせる際に、楽器の演奏の苦  
手な児童がどうするかが心配だった。これまでも、打楽器など特定の楽器に  
集中してしまうことがあった。しかし、主旋律の階名が歌えるようになった  
自信がリコーダーで演奏しようという気持ちにつながった。

「ドレミがわかったからここができる」「ゆっくりだとできた」という声を  
きくことができた。



### 協力的な指導の 工夫

#### 《3次3時目》

本題材の3曲目の教材曲『茶色の小びん』では、今まで学習してきたことをも  
とに、自分たちで楽器やパートを選ばせ、演奏を工夫していく場を設定した。  
グループごとの表現意図が明確になるにつれて、細やかな指導が必要になる。

児童の表現意図の具現を目指して、グループごとの  
の練り上げの場となる本時は、協力的な指導  
(T・T)による意図的な支援を工夫していきたい  
と考えた。

しかし、本校には、音楽専科はいないため、今回  
のT・Tの担当は、児童の実態をよく知る算数の  
T・T担当の教師である。教師も児童も、お互いに  
知っているので児童も安心して相談し、練習に取り  
組むことができると考えた。

#### 【児童の思いを明確にするために】

- 4つの班のねらいがわかるような学習カード（一覧表）
- MD録音を聴き、前回の様子を確認
- 班のめあて、個人のめあてを確認

#### 【短い時間を有効に】

- 楽器はグループで相談して決めた。どの  
グループも、リコーダー、鍵盤、キーボ  
ード、木琴か鉄琴を使用した。(教科書で示し  
た例をもとに話し合った結果) 同じ種類の

	2班
班	音の大きさに気をつける。
共通のめあて	えんそうする速さに気をつける。
個人のめあて	③ 木琴 タンギング ④ 音色 ⑤ 木琴 たたくつよさ。 ⑥ 木琴 まがえなはた ⑦ 木琴 タンギング ⑧ 音色